

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字が定着していない児童が6割以上いる。語彙も不足しているため、自分の考えや感情を具体的に表現したり、文章構成を工夫して自分の考えを分かりやすく記述したりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字は、家庭学習やタブレットのドリル学習を活用しながら習熟を図っていく。日常的に様々な学習場面で自分の考えを書き、それを互いに読み合う活動を多く取り入れていくことで相手意識を高めていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題を解決するためにどんなことを調べればよいかなど、「学習計画」を立てることが難しい児童が多い。 調べる段階の各時間で分かったことを関連付け、学習問題に対するまとめができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題の予想をする時間を十分に確保し、そこから問いを考えさせるようにする。問いをワークシートに転記させ、見通しをもって調べ学習を進める経験を重ねられるようにする。 ワークシートを活用したり、学習問題を立てるときに使った資料をもう一度見直したりして、社会的事象の見方・考え方を働かせられるように工夫する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習の知識・技能が定着していないため、算数に対して苦手意識をもっていて、よりよく問題を解決しようという意欲がもてない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、授業の導入で既習の知識・技能を確認していく時間を確保する。問題の場面理解が確実にできるよう、具体物を用意する等の教具の充実を図ったり、ICTを活用したりする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組んでいるが、結果から考察する力に課題がある。なぜその結果になるのか、その結果から何が分かるのか考えようとせず、他者の考えを聞いて終わってしまう児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察の時間を十分に確保する。 既習事項との関連を考えさせる。 自分の考えを共有したり、話し合ったりする機会を設ける。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 響きのある声で歌おうとする意欲はあるが、互いのパートや全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌おうとする意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 他パートを聴きながら歌ったり、伴奏のみに注目したりする。また、歌い手と聴き手に分けて歌い、重なりのおもしろさ、美しさを感じ取れるようにする。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 道具を活用して意欲的に作品づくりに取り組んでいるが、安全意識に課題のある児童も一定数いる。立体作品をつくる時に時間がかかりすぎる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に道具が使えるよう一層の声掛けを行う。高学年で扱う道具を使用する機会を充実させ、技能を高めていく。時間を意識するように声かけする。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む児童が多いが、家庭での生活経験の差から、自ら課題を設定することが難しい児童がいる。また、知識・技能の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達との交流や ICT を活用し学習内容の理解を深める。学習内容の定着を図るため、家庭と連携し、お手伝いカード等を実践する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体育が好きな児童が多いが、嫌いな児童や苦手意識のある児童も一定数いる。 自分の課題を捉える力が弱く、課題に合った運動の場を選んだり、課題解決に向けて運動をすすんで行おうとしたりする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の前にアンケートを実施し、運動に肯定的ではない児童の困り感を把握する。 児童が主体的に取り組めるように、運動の提示の仕方、学習過程を工夫する。 技能のポイントが分かるように提示の仕方を工夫したり、課題に合わせた運動の場を設定したりする。 	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 文字を書く基本的な約束事が定着していない児童が多い。苦手意識をもつ児童は、授業に消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を写す作業も取り入れ、こまめにチェックする。児童が楽しく活動しながら外国語を学習できるよう教材研究を行い、効果的な活動を取り入れる。 	